【原　　著】

小学校全学年での心理教育“サクセスフル・セルフ”の実践に対する学級担任の評価

岡﨑　由美子　安藤　美華代

Classroom teachers' observations of a psychoeducational program, "Successful Self", implemented in all classrooms for students in one elementary school

Yumiko OKAZAKI, Mikayo ANDO

2016
岡山大学教師教育開発センター紀要 第6号 別冊

Reprinted from Bulletin of Center for Teacher Education and Development, Okayama University, Vol.6, March 2016

岡山大学教師教育開発センター紀要，第６号（2016），pp.67-76

【研究論文】

原　著

小学校全学年での心理教育“サクセスフル・セルフ”の実践に対する学級担任の評価

岡﨑　由美子[※1]　安藤　美華代[※2]

本研究では，心理教育“サクセスフル・セルフ”の2011年度から2014年度に全学年で行った実践への実践学級担任からの評価を分析し，実践のあり方を検討することを目的とした。養護教諭が学級担任のサポートのもと行った実践に対する学級担任評価は，概ね良好であった。感想を分析したところ，全学年に共通して「充実した授業」「実践に対する工夫のアドバイス」に関する記述が多く見られ，実践への評価は概ね肯定的であった。一方，「児童実態と授業内容のギャップ」に関する記述が全学年に共通して見られ，“サクセスフル・セルフ”の今後の実践では，“サクセスフル・セルフ”のレッスンの主題・目的からはずれないということを考慮しながら，児童の実態に合わせて改善することで，実践がより充実することが示唆された。

キーワード：小学校，心理教育，全学年，実践，評価

※１　岡﨑由美子 (就実学園就実小学校)
※２　安藤美華代 (岡山大学大学院教育学研究科)

Ⅰ　はじめに

近年，社会環境の変化に伴って小学生における心理・行動上の問題は，複雑化，多様化している。文部科学省が平成27年９月に公表した平成26年度の問題行動調査結果で，小学生の暴力行為発生件数のうち低学年での増加傾向が明らかされ，文部科学省の担当者は「感情のコントロールがうまくできていない児童が増え，家庭での教育機能も低下しているのではないか」と指摘した（産経ニュース，2015）。

また，小・中学校での不登校児童生徒は，小学校で24,175人（前年度112,689人），中学校で95,442人（前年度91,446人）と増加傾向は続いており，その原因として不安などの情緒的混乱28.1%，無気力25.6%，いじめを除く友人関係をめぐる問題15.0%と情緒的問題が多く上がっている（文部科学省,2014）。

筆者らは2012年に実施した小中学校教員を対象とした調査で，半数以上の教員が自己コントロールや対人関係に関する力が児童生徒に不足していると感じていることを明らかにし，一次予防としての心理教育的アプローチの必要性を示唆した（岡﨑・安藤，2012）。

さらに世界各国を見ても身体的精神的健康上の問題や児童生徒の学校生活での不適応は惨憺たる状況であり，山崎（2013）は学校でのユニバーサル予防が重要であると述べている。さらに，心身の健康や適応は，子どもたちの健康にとって何よりも大切な事であるにもかかわらず，その問題を予防することよりも問題が顕在化してはその対策に追われているのが現在の日本の状況であること，それにもかかわらず，長期にわたって継続して実施できる予防教育がほとんどないばかりか，誰もが納得できるプログラムもなく，学校教員が容易に実施できる状態にないことが明らかにされている（山崎ら, 2013）。また，そのような状況の中，心理教育“サクセスフル・セルフ”は，児童期から成人期の人たちのいじめやうつといった心理・行動上の問題を包括的に予防し，心の健康や社会的適応を育む心理教育であり（安藤，2012），すべての実践学年の介入効果が確認されている貴重な予防介入プログラムである（杉本，2014）。予防教育の実践を誰が行うかはその専門性において予防教育の普及や推進に影響する（山崎ら，2013）ことを考えれば予防教育の今後の実践可能性とさらなる実践継続に向けて，現在行われている実践を評価し，実践の可能性を検討することは有意義なことだと考えられる。

本研究では“サクセスフル・セルフ”の2011年度から2014年度の全学年の実践学級の担任からの評価を分析し，実践のあり方を検討することを目的とした。

Ⅱ　方　　法

1　対　象

中国地方公立Ａ小学校で2011年度から2014年度までの４年間，１年生から６年生の全学級において，学級担任のサポートのもと養護教諭が主になって実践した“サクセスフル・セルフ”を評価した実践学級の担任28人による174の回答を分析対象とした。

2　実践方法

各実践は，“サクセスフル・セルフ”（安藤，2012）の，自己洞察力を身につける「自己理解」，他者理解を踏まえた友達関係を構築する力を身につける「コミュニケーション」，友達関係における難しい問題に対処し解決するスキルを身につける「対処と解決」いずれかのテーマに沿って，各学年４つの実践で構成された。

3　評価方法

評価は，資料１のような評価シートを使用し，各授業終了後に行った。各実践テーマに関して，「授業を理解できていたか」「ワークシートを完成できていたか」「授業は楽しかったか」「授業はわかりやすかったか」「授業は生活に役立ちそうか」等で構成され，「そう思う＝４」「ややそう思う＝３」「どちらともいえない＝２」「ややそう思わない＝１」「そう思わない＝０」の５件法で回答を求めた。さらに実践に対する感想を自由記述で求めた。

4　分析方法

学級担任による授業評価得点は，2011年度から2014年度までの４年間を年度ごと「自己理解」「コミュニケーション」「対処と解決」の実践テーマ別に評価の平均得点を算出した。

学級担任の実践に対する感想については，学年ごとにKJ法（川喜多，1997/2006）を用いて内容分析を行った。分析にあたっては，独断的な判断になるのを避け，内容分析やカテゴリ生成の妥当性を高めるために，筆者らと臨床心理学を専攻する大学院生３人とで検討を行った。

5 倫理的配慮

“サクセスフル・セルフ”実施に際しては保護者にあらかじめ手紙を配布して理解と協力を得た。合わせて実践学級担任の研究への参加は任意であり，参加を撤回したことによって不利益な対応を受けることがないことを説明した。評価シートの記載事項及び集計結果については本研究の目的以外には使用しないこと，研究結果の概要を説明すること，また調査結果は統計的に処理されるため個人名は特定されないことについて，実践者が学級担任に説明し，同意を得た。

Ⅲ　結　　果

1　実践状況

2011年度から2014年の全実践184のうち，実践に対する評価が得られた174の評価の内訳を表１に示す。

全実践に対する評価数の割合は，94.6%とほとんどの実践について評価を受けることができた。

表１　評価数の内訳

年度		2011	2012	2013	2014	合計
実　践　数		40	44	48	52	184
評　価　数	１　年	8	7	8	12	35
	２　年	2	8	8	8	26
	３　年	8	8	7	8	31
	４　年	8	8	7	8	31
	５　年	6	8	7	6	27
	６　年	4	4	8	8	24
	計	36	43	45	50	174
全実践に対する評価数の割合（%）		90.0	97.7	93.8	96.2	94.6

2　実践に対する学級担任の評価

「自己理解」「コミュニケーション」「対処と解決」のテーマ別の評価の平均得点はいずれも３点以上で，実践に対する評価は概ね良好であった（表２）。

表２　テーマ別評価得点の平均点

年度	2011	2012	2013	2014
回答数	37	43	53	52
テーマ				
自己理解	3.26	3.74	3.31	3.30
コミュニケーション	3.37	3.16	3.14	3.53
対処と解決	3.31	3.26	3.41	3.24

注）評価得点「そう思う＝4」「ややそう思う＝3」
「どちらともいえない＝2」「ややそう思わない＝1」
「そう思わない＝0」

3　実践に対する学級担任の感想分析

各学年での，“サクセスフル・セルフ”の実践に対する学級担任の感想について自由記述を求めたところ，１年生50，２年生30，３年生41，４年生39，５年生42，６年生39の具体的な記述が得られた。具体的な記述内容について質的分析を行ったところ，１年生から６年生に共通して「充実した授業」「実践に対する工夫のアドバイス」の２つの共通したカテゴリが抽出された。学年別に，内容分析の具体的記述例およびカテゴリとその意味するところを，表３～表８にまとめた。

１年生の実践評価では，「発達段階に沿った指導方法の工夫」や「実践に対する児童の喜び」等に関する具体的な記述が見られた。

２年生の実践評価では，「児童の実践での頑張り」や「実践内容への理解の深まり」等に関する具体的な記述が見られた。

３年生の実践評価では，「実践への満足感」や「児童の実践での頑張り」等に関する具体的な記述が見られた。

４年生での実践評価では，「実践内容の適正さ」「実践活動の喜び楽しさ」等に関する具体的な記述が見

表３　１年生の授業評価の内容分析　回答数＝35

上位カテゴリ	回答数	下位カテゴリ	回答数	内　容	具体的記述例
充実した授業	35	指導方法の工夫	15	指導方法の工夫に関する記述	紙芝居でシュミレーションしてくれたので，子どもたちが状況を理解しやすかった。
		活動の喜び・楽しさ	8	実践に対する児童の喜びに関する記述	児童が楽しく友達に関わることができて，よい経験になった。
		児童のがんばり	6	実践の中の児童のがんばりに関する記述	解決するためにどうすればいいのか，１年生なりに考えることができたと思う。
		プログラムの成果	6	プログラム実践での成果に関する記述	他人と仲よくするにあたって，自分のことを正しく理解していることは大前提だと思う。１年生は年齢的に，自分を正しく理解していないことが多いので，よいきっかけになった。
実践に対する工夫のアドバイス	10	答えの引き出し方	3	実践の工夫へのヒントに関する記述	“あなたの気持ち”はすんなり想像できていたが「鬼になって」と言った“Ａさんの気持ち”を想像するのは難しい人もいたようだ。ピントがずれたことを書いていた人もいた。そこでの手だてが必要だったかもしれないと思った。
		役割演技の導入	2	実践の工夫へのヒントに関する記述	話をする時間をたくさんとったことは，互いの思いを共有したり，しっかり考えたりするのによかったと思う。そこにロールプレイなども取り入れるとより印象づいたかもしれないと感じた。
		登場人物の命名	1	実践の工夫へのヒントに関する記述	道徳の勉強の時だと「かずこさんは・・・」のように仮名がついているので「Ａ子さんとあなた」よりは「かずこさんとぼく」や「かずこさんとよしおくん」との方が理解しやすかったのかなぁと思った。
		板書	1	実践の工夫へのヒントに関する記述	これらのことを板書あるいはカードにおさえておくと，より子どもの印象に残ったかもと思った。
		選択肢の数	1	実践の工夫へのヒントに関する記述	アンケートや事前のワークシートなどは，１年生には，理解しがたいところもあったと感じた。回答の選択肢は３段階ぐらいだと選びやすいと思った。
		授業展開	1	実践の工夫へのヒントに関する記述	ビンゴの質問内容をもっと簡単にして実際にビンゴをするところまで１時間でやるのも手かなと思った。
		授業間隔	1	実践の工夫へのヒントに関する記述	１週間に１回なので，前時マイビンゴに何を記入したかすぐに思い出せない児童もいた。(2,３人)困っている児童のみ，持って受け答えできたかなと思った。
児童実態と授業内容のギャップ	5	考えを記述する難しさ	4	児童のアイデアの記述の難しさに関する記述	児童は仲直りの仕方を「あやまる」などの短い形でしか書けなかった。指導者の助言で詳しく書くことができたが１年生には詳しく書くことが難しかった。
		場面理解の難しさ	1	児童の場面理解の難しさに関する記述	場面がよくわかっていない児童がいて，少し難しかった。

表４　２年生の授業評価の内容分析　回答数＝26

上位カテゴリ	回答数	下位カテゴリ	回答数	内　　容	具体的記述例
充実した授業	16	児童のがんばり	6	実践の中の児童のがんばりに関する記述	たくさん記述するところがあったが，がんばって書く姿が見られた。昨年度の記憶が新しい時期での授業だったので，子どもたちにやる気が強く感じられた。
		児童の理解の深まり	4	児童の実践での理解の深まりに関する記述	自分のことを思い出して，友だちのことを考えたので，友だちがいて「よかったこと」「つらかったこと」が具体的に書いたり発表したりすることができた。
		実践者の授業力	2	指導者の授業実践の力に関する記述	「なかよくなれる３つのさくせん」を使ったアイデアを考えるろころが，今までの子どもの経験を，そのまま発表するようになった。それを先生が，その意見が３つのさくせんのどれに関わる意見かを訪ねてくださり，子どもは経験と作戦を結びつけることができた。
		事例の適切さ	2	事例の適切さに関する記述	実際の場面に近い設定で話し合えたので，子どもたちは，自分の気持ちを考えやすく，意見を出しやすかったようです。
		積み重ねの成果	2	実践の積み重ねの成果に関する記述	友だちとの関係をよりよくするためというめあてを子どもたちはよく理解していたと思う。１年生で学習したことをよく覚えていて感心した。
成長への期待			6	実践による成長への期待に関する記述	友だちとのかかわりは，学校生活において，特に大切だと思う。ダメだとわかっていても，つい言ってしまうことで，友だちが嫌な思いをするのではないかということ，言い方をかえるだけで，もっとなかよくなれることに気づけたと思う。
ワークシートでの児童理解	4	記述のタイミング	2	ワークシートの記述が児童の理解を進めたことに関する記述	どんな自分になりたいかを，どんな仕事と捉えたり，どんな性格と捉えたりしていた。しかし，まとめる前に自分について振り返るチェックをしたので「続けたい」「やめたい」を書きやすかったようです。
		様々な記述	2	ワークシートの児童の様々な記述が理解を進めたことに関する記述	「問題解決するための３つのスキル」では，こちらが予想してなかったこともたくさん書かれていたので，発表時間をもっととって，いろいろな意見を共有できるとよかった。
児童実態と授業内容のギャップ	3	考えを記述する難しさ	3	児童の記述の難しさに関する記述	ワークシートで，友だちとのつきあいの中で自分が気をつけていることを書かせる部分が少し難しかったのではないかと思った。２年生では，まだ意識して人間関係を作ることは，あまりされていないため，書きにくかったのだと思う。
実践に対する工夫のアドバイス	2	ワークシートの改良	2	実践の工夫へのヒントに関する記述	ワークシートは考える手だて，自分の考えを残すためには有効だが枚数が多いので，減らせないかな・・・？

表５　３年生の授業評価の内容分析　回答数＝31

上位カテゴリ	回答数	下位カテゴリ	回答数	内　容	具体的記述例
充実した授業	22	授業への満足感	10	実践への満足感に関する記述	トラブルが起きた時，相手に伝わりやすいように，伝え方を考えている児童が多かった。トラブルを冷静に考えるいい時間になったと思う。
		児童のがんばり	6	実践の中の児童のがんばりに関する記述	グループワークシートを完成させるための話し合いが，とてもスムーズだった。自分の意見を通そうとするのではなく，友だちの意見も聞き，受け入れながら，よりよい方法を考えることができていたように思う。
		教材の工夫	4	教材の工夫で実践が充実したことに関する記述	前時からの学習をひきついでの話だったのですんなり入れたと思う。
		積み重ねの成果	2	実践の積み重ねの成果に関する記述	「３つのさくせん」を子どもがおぼえていて，この機会に思い出すことができたのでよかった。
実践に対する工夫のアドバイス	10	授業時間の配分	4	実践の工夫へのヒントに関する記述	時間がもう少しあれば“お話”をもう一度全員で読み，それぞれの立場をおさえることができれば，全員が時間内にワークシートに書き込むことができたように思う。
		教員のサポート	4	実践の工夫へのヒントに関する記述	先生が，要所要所，サポート，具体例を入れていることが理解を進めるものだと思った。ヒント，例を活用し，大事な点を定着することが必要だと思った。
		役割演技の導入	1	実践の工夫へのヒントに関する記述	紙に書いて“「わたしは」ではじめるコミュニケーション”を行う活動より，演技で行う方が子どもの理解につながりやすいと感じた。
		事例の人物の名称	1	実践の工夫へのヒントに関する記述	いろいろな立場の人の気持ちを考えることは大切であるが，全ての人の気持ちを考えるならば「あなた」ではなく「Ｃさん」という立場で考えたほうが記入しやすいと思う。
児童実態と授業内容のギャップ	6	理解の難しさ	4	児童が実践内容を理解することの難しさに関する記述	今日は，話し手と聞き手が一人ずつだったのでとまどっていた子もいた。うまく反応を返せなかったり，トークをつなげる質問や意見を言うのが難しそうだった。
		方向性のずれ	2	実践者の意図と児童の理解の方向性のずれに関する記述	子どもたちは，「悪い誘いを断る」という目の前の問題解決を考えるのではなく「そもそもＡさんとＢさんがけんかをしていることが原因だ」という思いに捉われ，なかなおりをさせる方向で考える子が多かった。
児童にとっての課題の発見	3	個人差	1	児童の個人差で実践内容に差が現れることに関する記述	グループの話し合いは，メンバーによって内容に差があったと感じた。
		積極性不足	1	実践での積極性が不足していることに関する記述	グループで話し合う活動は，他教科でもしているので，そこでは皆発言していたようだが，進んでの発表が少なかったのが残念である。
		コミュニケーション力不足	1	児童のコミュニケーション力不足に関する記述	児童はたいていのもめごとが起こると「やめて」という言葉は言えても，「私は～思っているからやめて」ということはできていません。
成長への期待	4	３つの作戦	2	児童の実践力向上による成長への期待に関する記述	A,B,Cともに，いやな気持ちになる考えと解決しようと思う考えがあると思う。児童から，いろいろな考えを引き出しながら“自分の気持ちを伝える”“相手の気持ちを考える”“ゆずりあう”ことの大切さが強調できるとよいと思う。
		コミュニケーション能力	1	能力の向上による成長への期待に関する記述	クラスの力，というより一人一人のコミュニケーション能力を上げていかなければと思った。
		よい聴き方	1	児童の実践力向上による成長への期待に関する記述	聴き方のポイントは，丁度，国語の伝え合う単元で学習したばかりだったので，いい実践練習になりました。今後も経験を積んで自然とよい聴き方ができるようになればと思います。

表６　４年生の授業評価の内容分析　回答数＝31

上位カテゴリ	回答数	下位カテゴリ	回答数	内　容	具体的記述例
充実した授業	25	活動の喜び・楽しさ	6	実践に対する児童の喜びに関する記述	普段あまり関わらない児童同士も，積極的に質問することができていた。とても楽しい活動になったと思う。
		適正な内容	5	児童の実態に適した実践内容であることに関する記述	なかなか人の気持ちがわからない児童は，ワークシートに書くことにとどまっている様子もありましたが，ほとんどの児童が自分の経験をもとに，考えることができていた。これからの生活にも活かせる内容だったのではないかと思う。
		取組みやすさ	4	取組みやすい実践であることに関する記述	最初は，指導が難しいと思ったが，ワークシートで自分のことを振り返ればよいので児童にわかりやすかったと思う。
		必要性の理解	3	実践が児童にとって必要があることに関する記述	3つのワザを知っておくことで，実際にもめごとが起こった時，自分をおさえられる手助けになると思った。
		積み重ねの成果	3	実践の積み重ねの成果に関する記述	今までの3回のレッスンを通して，友だち関係についてやもめごとについての様々なスキルが身についてきていたため，今回の問題解決法もいくらか考えやすくなっていたように思う。
		学習のめあての達成	2	実践のめあてが達成されていることに関する記述	子どもたちは，やはり普段あまり親しくない友達には積極的に関わっていけていなかった。しかし，その一方でビンゴカードをきっかけに新たな友だちのよさを見つけられている子どももいたので，友だちを知ろうというめあてがきちんとできていたと思う。
		指導の成果	1	指導者の指導の成果が出ていることに関する記述	「3つのワザ」は理解できたが，具体的にどうしたらというのは思いつきにくいようだった。全体の発表の時に授業者が言葉を補いながら，まとめてくれたため，具体的なものになったと思う。
		児童の意欲を高めたもの	1	児童の意欲を高めているものに関する記述	レッスン2，レッスン3とグループワークの活動が子どもたちの意欲を高めていたと思う。
児童の実態と実践内容のギャップ	7	実践内容の理解の難しさ	5	児童が実践内容を理解することの難しさに関する記述	今回のレッスンは，抽象的な「友だち関係」を考える授業で「活動を通して」の気づきをワークシートにまとめるものではなかったので難しかったように思う。
		方向性のずれ	2	実践者の意図と児童の理解の方向性のずれに関する記述	激しい怒りにかられる子どもたちでないのでいまいちピンときてないようでした。
成長への期待			4	取組みにより成長が期待されることに関する記述	実践については，まだまだと思うが，知っていることで生かせることもあると思うので，今後もしっかり取り組ませたい。
実践に対する工夫のアドバイス	3	ワークシートの改良	2	実践の工夫へのヒントに関する記述	例文に挿絵があるとよりわかりやすいと思う。
		役割演技の導入	1	実践の工夫へのヒントに関する記述	役割演技をするとどうでしょう。より，実践に生かせると思う。

表７　５年生の授業評価の内容分析　回答数＝27

上位カテゴリ	回答数	下位カテゴリ	回答数	内　容	具　体　的　記　述　例
充実した授業	24	適正な内容	10	児童の実態に適した実践内容であることに関する記述	適切な自己主張を苦手とする児童が多い学年なので，とてもためになったと思う。
		取組みやすさ	6	取組みやすい実践であることに関する記述	場面設定が普段教室で起こりそうなことなので，気持ちが考えやすかったと思う。3つのワザは，短い言葉で覚えやすくてよいです。
		必要性の理解	3	実践が児童にとって必要があることに関する記述	これからどうしていいのかを考えることは，安心感にもつながっていくと思う。
		学習のめあての達成	2	実践のめあてが達成されていることに関する記述	それぞれの立場の気持ちをよく考えられていた。特に班での話し合いの内容が具体的に深く考えられていたので，担任としてもびっくりして感心した。
		提示資料によるイメージ化	1	掲示資料により学習内容のイメージ化ができていることに関する記述	いろいろな提示資料はイメージをもつためにはとても有効だったとと思う。山を登るイメージは，その後も児童の中に残っていたようだ。
		指導者の存在	1	指導者の存在が児童の実践によい影響を与えていることに関する記述	先生が落ち着いておられたので，児童も安心していられたと思う。
		児童の意欲を高めたもの	1	児童の意欲を高めているものに関する記述	今まで，内容豊かな授業ありがとうございました。担任が演技するところなど，児童もとても興味を持っていた。
成長への期待			10	取組みにより成長が期待されることに関する記述	実践できている子と全く実践できていない子との差がとても大きいので，これからも意識させていきたい内容だと思った。
児童の実態と実践内容のギャップ	7	実践内容の理解の難しさ	5	児童が実践内容を理解することの難しさに関する記述	全体的に“難しいなぁ”という感じを持ちました。“なりたい自分”の意味は理解できたが，今の自分について見つめ直すとなかなかイメージが持てないようでした。
		実践内容と児童の実感の差	2	実践内容と児童の実感とのずれに関する記述	児童にとっては，まだ，ストレスというものの実感があまりない児童も多いような気がした。
実践に対する工夫のアドバイス	1	授業に関連した活動	1	授業内容と日常生活に関連づけることに関する記述	日常の似たような出来事と関連して，ソーシャルスキルトレーニングをしてもよいと思う。

表８　６年生の授業評価の内容分析　回答数＝24

上位カテゴリ	回答数	下位カテゴリ	回答数	定　義	具体的記述例
充実した授業	20	適正な内容	9	児童の実態に適した実践内容であることに関する記述	適切な自己主張は，これから生活していく中でとても大切なので児童にとってもよい勉強になったと思う。
		学習のめあての達成	5	実践のめあてが達成されていること関する記述	子ども達の中には，場面の状況を理解するのに少し時間のかかるものもいたようだが，次第に内容もわかり解決策を考えていたと思う。
		活動の喜び・楽しさ	2	実践に対する児童の喜びに関する記述	前回よりは発言も積極的だったので，とても楽しくできた。
		実践者の授業力	1	指導者の授業実践の力量に関する記述	先生が話し合いに上手に参加し，アドバイスをすることで，子ども達の気づきもふえたので，先生が積極的に関わっていくことの大切さを感じた。
		プログラムの必要性	1	プログラムによる実践の必要性に関する記述	子ども達が“自分のよいところ”を全然言えなかったので，自尊感情の育成がとても大切だとつくづく思った。
		実践内容の理解しやすさ	1	実践内容の理解しやすさに関する記述	授業のはじめに説明があったことを使って実際の断り方を考えたので考えやすかったように思う。一つの方法だけでなく，いろいろな断り方があり，その時々に応じて判断して使い分けたらいいのだということがよくわかったと思う。
		授業方法の工夫	1	授業方法の工夫に関する記述	ロールプレイをすることで実践的に学ぶことができるので効果的な学びにつながると思った。
成長への期待			6	取組みにより成長が期待されること	「関わらない」というより「どうにか解決していこう」という気持ちが育ってほしい。
実践に対する工夫のアドバイス	5	教材の工夫	3	実践の工夫へのヒントに関する記述	自己解決力を育てるなら，もう少し軽めの問題を事例とした方が，複数の解決策を立案し，評価し実行するというめあてに近づけると思われる。
		ソーシャルスキルの導入	1	実践の工夫へのヒントに関する記述	ソーシャルスキルとしての会話術を前面に押し出すとよいと思う。
		授業時間の配分	1	実践の工夫へのヒントに関する記述	時間がかかってしまうので，対話の時間を2分～2分半でいいのかなと思った。
児童の実態と実践内容のギャップ	4	実践内容と学級の雰囲気との差	4	実践内容と学級の雰囲気とのずれに関する記述	クラスの中で，どちらかというと，相手に合わせていく子が多いので「自己主張をする」ことがマイナスにみられているような雰囲気がある。
児童にとっての課題の発見	3	実践内容の理解の難しさ	3	児童が実践内容を理解することに難しさを感じていること	昔と最近とを比較する目的が少しわかりづらいと思う。
今後に向けての課題	1	他の教科との関連づけ	1	授業内容と他の教科に関連があることに関する記述	道徳の授業と大変に関連があると思った。

られた。

５年生の実践評価では,「実践内容の適正さ」や「実践の取組みやすさ」等に関する具体的な記述が見られた。

６年生の実践評価では,「実践内容の適正さ」や「学習のめあての達成」等に関する具体的な記述が見られた。

全学年に共通して抽出された２つの上位カテゴリで,「充実した授業」は21,「実践に対する工夫のアドバイス」は14の下位カテゴリで構成されていた(図１，図２)。

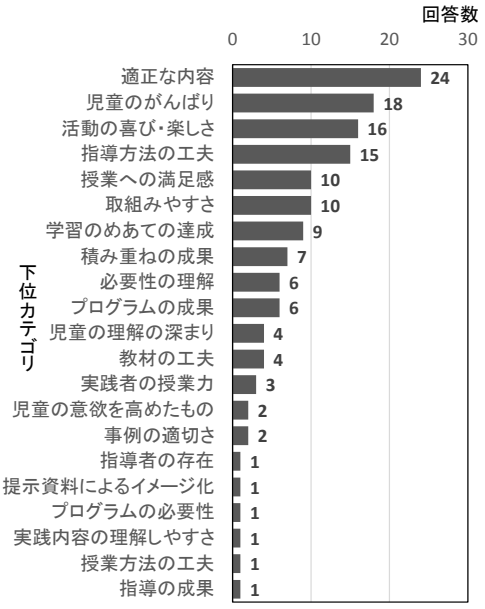

図1　上位カテゴリ「充実した授業」の構成
回答数＝174

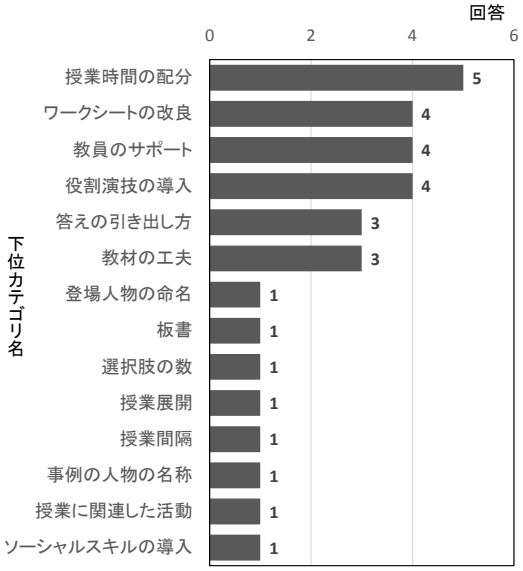

図２　上位カテゴリ「実践に対する工夫のアドバイス」の構成
回答数＝174

また児童の実践や理解を難しくしている「実践への課題」に関する具体的記述が見られるカテゴリとして，全学年に共通して「児童実態と授業内容のギャップ」が抽出され６つの下位カテゴリで構成されていた（図３）。

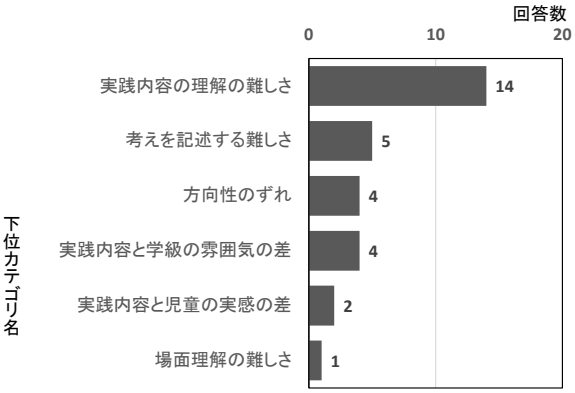

図３　上位カテゴリ「児童実態と授業内容のギャップ」の構成
回答数＝174

同様に，１年生以外の学年に共通して，実践をすることでの成長への期待に関する記述が見られるカテゴリ「成長への期待」が抽出され４つの下位カテゴリで構成されていた。

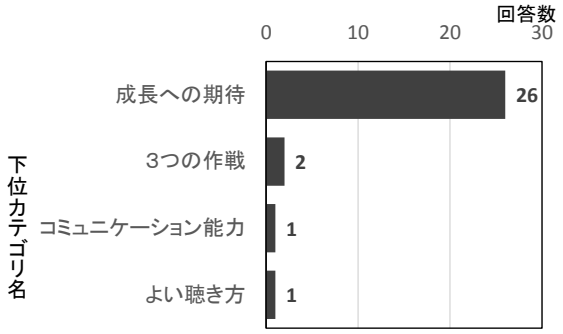

図４　上位カテゴリ「成長への期待」の構成
回答数＝174

Ⅳ　考　察

本研究では，“サクセスフル・セルフ”の実践学級担任からの評価を分析し，実践のあり方を検討した。

１“サクセスフル・セルフ”の実践の楽しさについて

子どもたちが求めている楽しい授業とは，自分のことを出せ，なんでも話せる雰囲気がある授業であると森竹（2007）は述べている。“サクセスフル・セルフ”の実践では子どもたちが個別にじっくり考える時間を設け，小グループでの話し合いや役割演技を取り入れることで，自分のことを語れるだけでなく，授業実践者が子どもたちに対して肯定的なメッセージを送ること（安藤，2012）が求められている。そのような実践方法に沿った“サクセスフル・セルフ”の実践により，子どもたちが「喜び・楽しさ」を感じることができていると評価されたと考えられる。

２　より理解しやすい実践への工夫について

学校の教員は，児童生徒にとって「魅力的な授業」「分かりやすい授業」を追求し，実現していく責務があることが学校教育法に明記されている。また，評価シートを活用し様々な視点の評価について集計し，その結果を明確にすることで授業改善のポイントが分かりやすくなる（愛媛県教育委員会，2007）として教員の授業改善のための研修が行われている。本研究でも“サクセスフル・セルフ”実践を評価・分析したことで，より分かりやすく理解しやすい授業実践へのヒントが得られたと考えられる。ここで得られたヒントは実践の改善を促し，実践学級担任から，子どもたちの成長の可能性を高めると評価されたと考えられる。

3　児童の実態に沿った実践について

“サクセスフル・セルフ”実践に取組む際には，子どもたちの集中力・考える力等の特徴や程度を踏まえた実施方法の工夫が求められているのと合わせて，子どもたちや学年・学校の実態を考慮した変更はレッスンの主題・目的を理解した上で慎重を要する（安藤，2012）とされている。本研究での実践において，実践に対する課題として「児童実態と授業内容のギャップ」「方向性のずれ」に関する具体的な記述がみられたが，実践者と実践学級担任等でさらなる検討が必要であることが示唆された。

4　実践における積み重ねの重要性について

プログラムの実践の教育効果は時間が経つにつれて薄れていくため，学習内容を維持して向上していくにはそのための手立てが必要である（倉掛ら，2006）ことが先行研究で明らかになっている。“サクセスフル･セルフ”プログラムの心の健康を維持･増進させるというねらいに沿った本研究での１年生から６年生の各学年の実践で,「充実した授業」は「積み重ねの成果」であると評価されたと考えられる。

Ⅴ　まとめ

“サクセスフル・セルフ”の今後の実践では，“サクセスフル・セルフ”のレッスンの主題・目的からはずれないということを考慮した上で，児童の実態に合わせて改善することで実践がより充実することが示唆された。

謝　辞

本研究にご協力いただきました，児童の皆様，教師の皆様，ご理解とご協力をいただきました実践校の皆様に，感謝いたします。

本研究は，日本学校保健学会第62回学術集会において発表したものを，加筆修正したものです。当日貴重なコメントをいただきました座長・フロアーの皆様に感謝いたします。

Ⅵ　文　献

安藤美華代　小学生の問題行動・いじめを予防する！“サクセスフル・セルフ”実践プラン，明治図書出版，2008

安藤美華代　児童生徒のいじめ・うつを予防する心理教育〝サクセスフル･セルフ〞.岡山大学出版会，岡山，2012

愛媛県教育委員会　小学校・中学校授業評価システムガイドライン，2007

川喜多二郎　発想法―創造性開発のために」.中公新書，東京，1967/2006

倉掛正弘・山崎勝之　小学校クラス集団を対象とするうつ病予防教育プログラムにおける教育効果の検討，2006

文部科学省　平成25年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査　2013

森竹高広　静岡教育サークル「シリウス」http://homepage1.nifty.com/moritake/

岡﨑由美子・安藤美華代　心理教育的アプローチに対する教育現場の実態とニーズ　岡山大学教師教育開発センター紀要　第２号，2012

産経ニュース　小学生の暴力行為が過去最高　２年連続で１万件突破 問題行動調査で判明 2015,９,16

杉本任士　日本の小学校における望ましい人間関係形成に関する実践研究　日本大学大学院総合社会情報研究科紀要　15,171-181,2014

山崎勝之 世界の学校予防教育第１章 子どもの健康・適応と予防教育の必要性，金子書房．東京．2013

資料１１年生レッスン１で使用した評価シートの内容

平成○○年度
○年生レッスン○

振り返りシート(実践者用)

実施日平成　年　月　日

実践学級　年　組　児童数　名(男子　名　女子　名)
実践者数　名　担任　養護教諭　その他(　　)

【設問１】レッスン１の授業実践について，下の表で振り返ってみてください。質問の内容について，そう思わない=0，ややそう思わない=1，どちらともいえない=2，ややそう思う=3，そう思う=4 の中から選んで，それぞれあてはまる番号に○印をつけてください。

質　問	回答				
	そう思わない	ややそう思わない	どちらともいえない	ややそう思う	そう思う
1 児童は「マイピンボ」を完成することができましたか。	0	1	2	3	4
2 児童は，活動を楽しむことができましたか。	0	1	2	3	4
3 児童は，自己紹介をすることができましたか。	0	1	2	3	4
4 レッスンは楽しかったですか。	0	1	2	3	4
5 レッスンの内容はわかりやすかったですか。	0	1	2	3	4
6 レッスンは今後の学校生活に役立つと思いますか。	0	1	2	3	4

【設問２】レッスン１を実践してみて思ったことや感じたことを書いてください。

記入者名

Classroom teachers' observations of a psychoeducational program, "Successful Self", implemented in all classrooms for students in one elementary school

Yumiko OKAZAKI※1, Mikayo ANDO※2

The objective of this study is to analyze the evaluation of "Successful Self", a psychoeducational program to prevent psychological and behavioral problems. A school nurse, along with classroom teachers performed and carried out this program in all classrooms of one elementary school from 2011 to 2014. These teachers evaluated each lesson and reported positive assessment. The quantitative evaluation showed several common impressions such as "substantial lectures" and "advice for practical improvement of the program". On the other hand, the teachers in all grades commonly described about "differences between the contents of the lessons and the reality among the students". In conclusion, maintaining the objectives and goals of the program and modifying the contents of the lessons to match the reality of the students will be beneficial.

Keywords：elementary school, psychoeducation, all grades, practice, program evaluation

※1　Syujitsu Elementary School of Syujitsu Gakuen
※2　Graduate School of Education, Okayama University